

ペルー 2025年にチリを抜いて南米最大の果実輸出国に

[FreshPlaza 2025年6月19日](#)

ペルー農業開発灌漑省 (Midagri) 農業政策総局の報告書によると、同国は2025年に、歴史的にチリが占めてきた南米最大の果実輸出国の座を奪う見込みである。

2012年から2022年までの農産物輸出データに基づくこの予測では、2025年の輸出額をチリの推定99億7,900万ドルに対し、ペルーは推定101億9,400万ドルとしている。

「チリとペルーの2024年までの農産物輸出の進展」と題されたこの調査結果は、チリの農産物貿易が年平均6.1%で成長したのに対し、ペルーは同11%で成長したことを強調している。この成長率の差により、格差は急速に縮小し、2024年のペルーの農産物輸出額は91億8,500万ドルで、チリの94億300万ドルに迫っている。

ペルーの輸出セクターの力強い勢いは、2010年から2024年の間に海外向けの販売額が年率19.6%で増加した果実の伸びによるところが大きい。対照的に、チリの伸び率は6.8%であった。もしこの傾向が続けば、ペルーの果実輸出額は2027年に110億6,400万ドルに達し、チリの果実輸出額を9%上回ることになる。

ペルーの輸出品目の中で最も際立っているのはブルーベリーとアボカドで、その輸出は南の隣国であるチリを大きく上回っている。ブドウでは差が小さいが、天候条件が許せば、ペルーは2025年に世界最大の輸出国になる可能性がある。

野菜では、両国の格差はさらに広がっている。このカテゴリーの両国の合計輸出額に占めるペルーの割合が83%であるのに対し、チリは17%である。その年間成長率は果実よりも緩やかであるが、チリの1.5%と比較してペルーは3.9%と南の隣国を大きく上回っている。

世界的に見ると、ペルーは2025年にチリを上回り、オランダに次ぐ世界第5位の果実輸出国になると報告書は予測している。現在、中南米の主な輸出国はメキシコ、チリ、ペルー、エクアドル、コスタリカであるが、南米地域におけるリーダーシップは近くペルーの手に渡ると見られる。

こうした競争にもかかわらず、国際市場がもたらす課題に共同で対処することを可能にするため、両国の企業は戦略的提携の確立に関心があることを報告書は強調している。この連携は、物流コストの削減、販売促進活動の共同実施、収穫の季節性を活用した輸出可能な品目の拡充につながる可能性がある。

ペルーの農業セクターのダイナミズムは、米国等の主要市場への特恵的なアクセス、悪天候への耐性、及び生鮮果実・野菜に対する世界的な需要の高まりの恩恵を受けてきた。

しかし、同報告書は、貿易政策の変更、厳しい異常気象、インフラや国際関係の脆弱性等、この成長を鈍化させる可能性のある潜在的なリスクについて警告している。

国連統計部によると、2022年の世界の果実輸出額は史上最高の1,370億ドルに達した。このような中、ペルーの台頭は世界の地図を書き換え、国際果実貿易における南米の主導的な役割を強化するものである。

出典: infobae.com